

令和7年度 第3回 北星中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 2025年11月19日（水）14時30分から16時10分まで
- 2 開催場所 北星中学校 2階多目的室
- 3 出席委員 古山 照美、野中 美恵子、横田 明、澤田 ひろ子、伊藤 直孝、
宮地 完登、松尾 剛志
- 4 欠席委員 長谷川 良樹、米倉 保之、
- 5 オブザーバー 澤木 克彦（三方原協働センター 所長）、嶋田 哲也（北部協働セン
ター 所長）、鈴木 克隆（北部協働センター 主任）
- 6 学 校 野中 崇（校長）、廣田 憲一（教頭）、鈴木 彰弘（教務主任）、
村松 美沙（CSディレクター）
- 7 教育委員会 牧野 知子（学校・地域連携課）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 村松 美沙
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、古山会長が務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 令和7年度学校評価アンケートの項目検討について
- (2) 休日部活動の地域展開について

12 会議記録

司会の鈴木（教務主任）から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 令和7年度学校評価アンケートの項目検討について

議長の指示により、教務主任から、別紙資料に基づき「令和7年度の学校評価アンケートの質問項目について」説明があった。校長から、令和7年度は生徒・保護者、教師へのアンケート内容の共通化や、ICT教育や休日の部活動の地域展開といった時代の変化に合わせた質問項目を追加し、令和8年度以降で比較していくと説明があった。

<御意見>

- ・非常にわかりやすいアンケートになった。（野中委員）
- ・質問内容が統一され、統計がとりやすい内容と感じた。（松尾委員）
- ・大項目と小項目があり何を聞かれているのかわかってよい。（澤田委員）
- ・質問6と14の小項目「個人内成長」は生活面と学習面のことか。（横田委員）

今回作成のアンケートは、新しい内容を追加した上で令和6年度のアンケートを並べ替え、文言を揃えた内容となっている。質問6と14は、令和6年度実施の質問12と13にあたるものであり生活面と学習面の質問である。（教務主任）

令和7年度学校評価アンケートについては、11月27日にさくら連絡網にて実施予定。

(2) 休日の部活動の地域展開について

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき「休日の部活動の地域展開について」説明があった。11月28日(金)に1, 2年生の保護者を対象にした部活動保護者説明会を実施。説明会後に各部活の保護者同士で意見交換していただく。

<御意見>

- ・協働センター祭り等にボランティアで参加する中学生の対応が立派であり、回数を重ねるごとに成長している。ボランティア活動を「はまクル」のシステムに組み込むことで地域がアプローチしやすくなるのではないかと。(野中委員)
- ・葵・高丘地区社協のこども食堂等では、北星中のボランティアがたくさん来てくれて助かった。歳が近い中学生が参加してくれることで小学生も迎えやすくなる。高校生になっても手伝いにきてくれたり、大学生になって企画をしてくれたりと若い力を頼りにしている。「はまクル」の中にボランティアに関する組織があると地域に貢献できるので助かると感じた。(古山委員)

「はまクル」は運営団体がないと作れない。協働センターがボランティアの団体を作ることについてどう考えるか。(校長)

- ・ボランティアを団体にすると単発でボランティアをしたい子供がいた時にどうするか課題になってくる。子供たち主体で地域イベントの情報収集・参加後の感想等の情報提供する場があると助かる。また、5月から8月のボランティアは北星中の生徒は参加しないが、10月の協働センター祭りにはたくさん参加してくれる。(北部協働センター 嶋田所長)
- ・アニメ等の単発の講座はあるが、部活動に変わる受け入れとして新たに講師を招いて教えるとなると課題が多く検討が必要である。(三方原協働センター 澤木所長)

アンケートによると、「はまクル」に参加を希望しない人28%、未定の人54%であるため、休日に地域の協働センターの講座やイベントにたくさんの生徒が参加することを期待している。学校が協働センターのイベント等を生徒へ周知することが課題である。(校長)

- ・参加をきっかけにボランティアに興味を持つ生徒が増えると良い。イベントの情報が流れる仕組みがあればよいと思う。(松尾委員)

イベントがテスト期間等と重なったりすることもあるため、学校と協働センターが年間計画を相互に周知することが大切である。時期的なパンフレットを渡すだけでなく、計画的に出す必要があると感じた。(校長)

- ・部活動別在籍数をみると近隣の学校と連携ができる仕組みがあるとよいと思う。誰が他校に声掛けし連携を進めるのかが疑問である。やる気のある子供の意欲をつぶさないでほしい。(澤田委員)

「部活動」については北星中生徒のみで活動。「はまクル」については近隣の中学校と合同で活動することは可能である。「はまクル」は学校が主導で組織を立ち上げるものではないため、近隣中学校の保護者同士で話し合っていていただくしかない。(校長)

- ・他校とのつながりは練習試合等で会うため保護者・生徒ともある。どの部活が土日に場所を優先的にできるのか。場所が足りないような気がする。(伊藤委員)

ガイドラインによれば、場所については、初めは教員が日程調整するという事になる

っている。(校長)

- ・最初に誰が「はまクル」を立ち上げるのかというのが一番の課題である。価値観や情報量も保護者によって違ってくる。子供の人数や指導者確保を考えると近隣の学校と共同で「はまクル」を設置するのが理想であるが、保護者同士で連携するのも厳しい。子供がアンケートに「未定」と答えるのは「はまクル」の概要がわからないからだと思う。大人が子供のために早急にサポートする必要があると感じる。(松尾委員)
- ・初生町の道場で剣道を指導している。色々な小中学生が通っているため、道場として「はまクル」とどう連携すればよいか悩んでいる。すべての中学校の顧問と連携するのも大変である。9月開始という期限が見えてきた中で、具体的に考えなければならない。また、民間の放課後学童保育を運営しているが、中学生が保育体験や職業体験としてボランティアに来て小学生の面倒を見てくれると助かる。休日の部活動がなくなった後の中学生の居場所として、企業もボランティア等で必要としているのではないかと感じる。(宮地委員)
- ・学校としては休日の指導員の声掛けはしているのか。(横田委員)
「はまクル」については学校側から立ち上げてほしいとは言うものではない。地域では2名の指導者希望があった。「はまクル」の指導者については浜松市の「はまクル人材バンク」に登録が必要であり、市が派遣する仕組みになっているがどれだけの人数が登録しているかは未定である。(校長)
- ・地域クラブのない部活は休日がなくなる可能性が高いため、子供たちのやる気低下に繋がらないように大人がサポートする必要がある。休日と平日の指導者が違うと色々と感じ、静岡市の案が良いと思う。(横田委員)
- ・指導者を探す以上に団体を立ち上げる責任者を探すほうが大変だと感じる。組織の立ち上げ方や成功事例等情報をいただけたら、地域に広めることができる。(澤田委員)
- ・各協働センターには地域活動団体があり様々なサークルがあるので、大人と中学生がコラボできるが曜日と時間が決まっている。受け入れ体制は検討するが、どの協働センターも体育館や教室の空きがない状況である。(三方原協働センター 澤木所長)
- ・少年団では男女合同でやるが、部活によっては同種目で男女合同にすることで指導者や施設利用の効率化が図れるのではないかと。(北部協働センター 嶋田所長)
学校でも教師の負担を減らすために先生にアンケートをとり、施行的に男女合同で部活をやらないかと声掛けしたが難しい部分が多かった。(校長)
バスケは男女でボールの大きさ、バレーはネットの高さがちがうため、部活によっては競技の特性上、難しい点がある。(教頭)
- ・北星太鼓の演奏が素晴らしいため、1・2年生の部員が少なくて寂しく感じる。(横田委員)

13 報告

保護司主催で7月11日(金)と9月11日(木)に北星中校門前で挨拶運動を実施。参加いただいた学校運営協議会委員の方々・自治会の方々等にお礼を伝える。(澤田委員)

14 連絡

(1) 令和7年度学校運営協議会自己評価表について

委員は12月18日(木)までに「自己評価表」の提出をお願いする。

(2) 学校運営協議会の年間日程について

第1回 令和7年5月23日(金) 14時～16時 実施済

第2回 令和7年9月24日(水) 14時～16時 実施済

第3回 令和7年11月19日(水) 14時半～16時半 本日実施

第4回 令和8年2月4日(水) 14時～16時

(3) その他予定

12月17日(水) 午前10時半～11時半 企業講演

スズキ株式会社 熊瀧 潤也氏

※委員観覧可

以上